

令和4年度 弘前市総合計画審議会 議事概要 (第2回)			
日 時	令和4年7月26日(火) 17時30分～19時30分		
場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室及びオンライン	傍聴者	0人
出席者	委員 (15人)	【会場出席(10人)】 森会長、鴻野委員、藤田委員、大西委員、田澤委員、 小山(悟)委員、鈴木委員、小山(三)委員、斎藤委員、 成田委員 【オンライン出席(5人)】 今村委員、高島委員、崎野委員、清藤委員、外崎委員	
	事務局 (6人)	企画部長、企画課長、企画課長補佐、企画課主幹、 企画課主査(2人)	
	その他		
会 議 概 要			
1 開 会			
2 議 事			
(1) 第1回審議会の質疑に対する回答について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
<ul style="list-style-type: none"> ・町会加入率について、分母を市が把握している世帯数、分子を町会が把握している町会加入世帯数として算出しているとのことだが、1戸に3世帯が住んでいる場合でも、大体は1世帯のみが町会に加入している。このため、町会加入率の実数は把握が難しく、課題となっている。 			
⇒3世代が住み世帯分離している場合には世帯数が3となり、これを町会としては把握しづらいということは承知しているが、より正確に算出する方法がないため、一つの目安としてこの手法を使っていることをご理解いただきたい。			
なお、より正確な算出方法があれば、そちらを使っていきたいと考えている。			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の町会加入が少ないことについて、町会では学生が住んでいることを把握しづらいので、大学が学生に対して加入しているかどうかのアンケート調査を行えば、現状の把握につながるのではないか。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・除排雪について、市内に積雪センサーを設置し、どの工区で積雪や苦情・要望が多いのか、その傾向を月ごとに分析しているとのことだが、月ごとではなくもっと短 			

い期間で分析できないのか。効率的に除排雪を行えば、苦情も減るのではないか。
⇒分析は月ごとに行っているが、苦情があれば担当課では都度、対応しているほか、速やかに除雪作業も行っていることをご理解いただきたい。

- ・いつ除雪作業が行われるのか、市民が事前に知ることができる体制を整えて欲しい。

⇒弘前市の地図情報サイト「ひろさき便利まっぷ」において、除雪作業を行った軌道はわかるようになっているが、除雪されるかどうかを事前にお知らせする体制を整備できるかどうか、担当課に確認する。

なお、市ホームページに加えアップルウェーブや SNS も活用して、排雪の予定を事前に周知する取組を今年度、行っていく予定である。

- ・除雪と町会の両方に関連するが、除雪機を持って自前で除雪を行っている町会もあるので、そのことをもっと発信し、町会の必要性を訴えながら町会加入に繋げていってはどうか。

このほか、所定の場所にゴミを出しているのであれば町会に加入すべきであると個人的には思うので、町会に加入することが当然であるという風潮を高めていくことが重要である。

⇒除排雪については市が行う事業のほか、町会や市民、学生との協働による事業もあり、引き続き取り組んでいく。

また、町会は清掃美化活動や防災など様々な機能を担っているので、引き続き、町会連合会とも連携し加入を促していくほか、幅広い年代が町会に参画できる仕組みの構築を支援していく。

(2) 弘前市総合計画の一次評価について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

【①健やかな体を育成する教育活動の充実】

- ・指標「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」について、小学 6 年生であれば実績値はおよそ 95%であり、目標値が 98%であることからあと 3 ポイント増加させる必要があるが、意識啓発や呼びかけだけでは 3 ポイント増加しないので、子ども食堂と連携するなど他の事業とも関連付けて、実質的なサービスを展開しないと目標を達成できないのではないか。

⇒分野別政策「③子育て」において、「次世代の健康づくり推進事業」なども実施しているが、提案いただいた子ども食堂との連携も必要と認識している。

⇒現状、子ども食堂は放課後や土日の昼に活動しているので、朝の活動が可能かどうか、関係者会議の場で確認する。第三大成小学校で具体的な取組があったと記憶し

ているので、調べて後日回答する。

- ・一例として、指標「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」であれば実績値が近年横ばいだが、なぜ増加しないのか、その要因や原因をしっかりと分析し、対応していく必要がある。

⇒当該指標の実績値は国で実施した調査結果から取得しており、要因や原因の分析までは行えていないので、この指標も含め全般において、より詳細な分析が必要なのではないかというご意見を担当課に伝える。

- ・指標「運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合」について、新型コロナウイルス感染症のみの影響により低下しているわけではなく、例えば少子化の影響で団体競技を行えないなど他の要因もあるので、それら要因をしっかりと記載し、対応を示していただきたい。

⇒団体競技の場を創出する事業としては、民間団体と連携し「児童のスポーツ環境整備支援事業」を実施している。具体的には今年度、裾野、新和、東目屋、高杉の4小学校区で団体競技ができる場を設ける予定であり、今後、継続的に取り組む体制を検討している。また、国において中学校の部活動の地域移行という流れもあるので、今後、市としても対応を検討していく。

【②産学官民連携による健康づくり】

- ・健幸増進リーダー、健康づくりサポーター、食生活改善推進員の成り手は十分に確保できているのか。

⇒健幸増進リーダーは184名養成し、健康づくりサポーターは現在は274名いるが、成り手は不足しているので担当課で人材の育成について検討している。

【③生活困窮者及び就労困難者等の自立・就労支援】

- ・「自立相談支援事業」について、令和4年度の予算額が令和3年度よりも少ないが、この要因を教えてください。

⇒予算が下がった要因は把握していないが、相談支援の体制や質に影響がないよう取り組んでいく。

- ・「学習支援事業」について、高校・大学に進学した後の学費面などでの支援策はどのようなものになっているのか。

⇒第3回審議会でお示しする。

【④新たな担い手の育成・確保】

- ・「ひろさき農業新規参入加速化事業」について、令和3年度は予算の不用額が目立

つが、具体的にどのような活動を行ったのか。

⇒市のほか農協などで構成される「ひろさき農業総合支援協議会」が認定した「里親農家」が、農業新規参入希望者に研修を行うほか、当該研修生のアパート等を借り際の家賃の一部を市が補助している。

現在、りんご農家の里親の下で1名が長期の研修中である。

【⑤耕作放棄地の防止と再生】

・耕作放棄地やりんご放任園の発生防止・解消と、農業への新規参入促進策を上手く連携させるよう、工夫して取り組んでいただきたい。

⇒担当課にお伝えする。

【⑥創業・起業への支援】

・創業件数が伸びているということであれば今後、事業の継続や拡大への支援策が必要になるので、具体的にどう展開していくのか、本施策においてでなくても構わないので、可能であるならば明記したほうがよい。

このほか、起業家同士をつなげる場の形成を成果指標の一つに設定してもよいのではないか。

⇒ご意見を踏まえて後期基本計画を策定するよう、担当課にお伝えする。

【⑦冬期道路環境の維持・整備】

・除雪のアルバイトを検討しているとのことだが、現時点でどのような取組を検討しているのか。

⇒担当課では今年度中に具体策をまとめるため、平川市の企業が大学生を除雪作業に派遣しているなどの事例を研究しているところ。

・井戸水を利用して消雪するモデル地区を設置していたが、設備の維持・メンテナンスが不十分であり、今後、どのように取り組んでいくのか。

⇒第3回審議会でお示しする。

・間口除雪軽減事業について、サイドシャッター付除雪ドーザを増やしていく予定はあるのか、導入費用は幾らなのか。また、導入する建設事業者を支援しているのか。

⇒サイドシャッターは1台400万円であり、半分を市が補助することとしていたが、騒音が大きく苦情があるほか、導入費用も高額であることから、本事業は終了する方向性である。

但し、既に導入したサイドシャッターについては引き続き活用していく。

・葛西前市長の時代に、画期的な消雪の取組があったが、現在も情報発信しているのか。また、取組を継続しているのか。

⇒毎年作成、公表している「弘前市除排雪計画書」において情報発信している。

なお、消雪の取組については、地下水を使うため地盤沈下があったなどの理由で廃止した取組もあるが、詳細については第3回審議会にてお示しする。

【⑧文化財の保存・管理と整備の推進】

事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

3 閉 会